

平成 31 年 4 月定例高森町教育委員会 会議録

日 時 平成 31 年 4 月 12 日（金） 午後 3 時～午後 4 時 00 分
場 所 中央公民館学習室 A
出席者 教育長 帯刀昇
教育長職務代理者 藤田柳治
教育委員 宮島元子 鈴木ちほ 湯澤正農夫
3 校学校長 高山中学校長・袖山南小学校長・小林北小学校長
事務局 大沢局長補佐・清水局長補佐・松島こども支援係長
寺沢社会教育係長・久保田あつたかてらす所長
岩田文化財保護係長・富田総副園長

1、開会

2、教育長あいさつ

3、協議・報告事項

(1) 市町村教育委員会連絡会の報告

(2) 各係からの報告

◆学校教育係

・エアコン設置状況について

4 月から本格着手。8 月 26 日までの工期延長の契約。7 月の上旬には試運転できる見通し。両校ともキュービクルの改修・搬入は 6 月下旬の予定。土日と平日（下校～夜 8 時）で工事を実施する。

（湯澤）エアコンの使用規定はどうなるのか？

（清水）職員室で集中管理ができる仕様にしており、設定温度は決めていく。使用規定は、先行している中学校の例を参考に今後、両校で決めていく。

◆こども支援係

・新保育園に向け今後のスケジュール

保育者アンケート（公立か民間か、場所の希望など）を 5 月に実施予定。

（湯澤）非常に大きな問題。5 園を 4 園にする。場所やどこどこを統合するのか？

現在、地元の方の反応や周知などはどうなっているのか？

（松島）現時点では町から説明はまだ行っていない。今の「子ども子育て会議」の状況も含めて説明が必要と考えている。また、会議の中では、様々なご意見があり、

保護者や地域、その立場によって意見が違うことも感じている。

(湯澤) 今の保育園の近くに住む方は、保育園があるからその場所に居住している方もいる。丁寧な説明が必要と感じている。これを丁寧にやらないと最後にどんでん返しになることもある。

(藤田) 「子ども子育て会議」でどこまで決めるのか。建設場所まで決めることは困難と考えるが…。

(松島) 「子ども子育て会議」の設置要綱では、保育園の定員などは決めるが、場所や設計内容などの審議・決定は求められていない。会議とは別に建設検討委員会を立ち上げることも考えている。

(湯澤) 今の保護者も数年後はいない。これから保護者になる人たちに丁寧に説明をする必要がある。

(藤田) 町の意向を示した方が良い。戦略も必要。事務局みんなで考えていくこと。

(教育長) 町長とも協議し、アンケートを実施する前に、吉田河原保育園の意向なども聞き、知らせる必要があると感じている。

(松島) 町長の考え方として、5園から4園に、そして2園を民間にとという意向がある。また、飯田市のように、「地域の保育園」という概念から、「行きたい(選んで)保育園へ行く」という考え方によって変わっていくべきではないかとの考えがある。

◆あったかてらす

- ・ 1周年記念イベント～Happy Happy フェスティバル～の案内
- ・ 現在の利用者数は、平日は平均15組程度。土日は多い。

◆社会教育係

- ・ 町民体育館トイレ洋式化工事について
- ・ 第29回県市町村対抗駅伝競走大会
- ・ 第15回県市町村対抗小学校駅伝競走大会
- ・ 公民館スポーツ大会の競技変更について
スローピッチは行う。ワンバウンドふらばーるバレーは、人集め・けがの懸念からクッブに変更。

◆文化財保護係

- ・ 富寿神宝

1200年前のお金が見つかった。6番目に古い。時の駅に展示し、今後は教育にも活用したい。

- ・ その他 松岡城跡の子供向けパンフレットを作成した。

小中学生が絵をかいた。子どもが楽しめる自然なども取り込んだ。

◆給食センター

・調理部門委託について

調理部門の民間委託を予定している。H30 に審議会 3 回実施し、審議員から意見をいただいた。今後、広報及び業者募集して、来年度 4 月から委託したい。

・31 年度給食費について

軽減税率の適用で消費税の影響はないので、給食費は据え置きとする。

(湯澤) 委託の内容は？

(大沢) 栄養士(県)はそのまま。運営と事務はこれまで同様町が実施。調理員は民間会社との契約雇用。公務員法の改正により、町での継続雇用が難しくなってくるため、委託による継続雇用で調理員の質を低下させないようにしたい。

(藤田) 委託契約はどうなるのか。

(大沢) プロポーザルによって決定していく。

(湯澤) 給食費には影響がないのか。

(大沢) 給食費は食材料費に対して決めているので、委託費には影響されない。

(3) 平成 31 年度予算概要

〈説明〉

(藤田) 予算をどういう考え方でつくったのか、実施方針の説明がほしい。

(清水) 別紙「政策・施策の評価シート」をもとに、話し合っていて決めた。目を通してもらい、次回ご意見いただきたい。

(4) 中学校期のスポーツ活動指針

H26 年度の県指針と比べ、町の方針はかなり緩い。当時、保護者からは県の方針よりもっと練習をしたいという意見があり、それを反映させた。今回 H30 年度に県の指針が新たになる。町の方針もそれに準じて、時間短縮を検討している。夏休みまでは現状のとおり。2 学期から新たな指針になる。その間に保護者に対してアンケートを実施する。

(湯澤) 先生の働き方改革の流れの中で、中学校のスポーツ活動に関する先生の超勤時間はどうなるのか。

(教育長) 部活動指導員を配置すれば超勤は減少する。今年度より 1 名配置した部(女子バスケ)については、顧問の先生の超勤は減少する。

(藤田) 総合型スポーツクラブは考えないのか。

(清水) 柿の里 SC という団体がある。他市町村と比べ、体協とスポーツ少年団の組織はまだ機能している。

(5) 条例・規則の改正について

(6) 日程等

4月10日(水)		飯伊市町村教委連絡協議会理事会
4月12日(金)	15:00	定例教育委員会、三校教委始めの会
4月22日(月)		飯伊市町村教委連絡協議会・歓迎会

4、閉会

【次回教育委員会】

・5月9日(木) 午後4時00分～ 於：中央公民館学習室A

三校 年度始めの会

各学校長から本年度の活動について、資料に基づき報告がされた。

【北小学校】

- ・「高森（自分）を知り・高森（自分）が好きになり・高森（他者）に発信する」主体的な学びの育成。
- ・みらい議会をもっと重要視したい。中学年からみらい議会を意識した学習を進める。
- ・修学旅行も行った後に高森町と比較する。
- ・町長より「数値目標の設定も重要」とのこと。今回グランドデザインに数値を記載。

【南小学校】

- ・あいさつの重視。校長の昇降口前でのあいさつは反応が鈍い子もいる。
- ・図書館の冊数は多いが冊数という数字だけではなく、しっかり落ち着いて本を読むような子どもを育てたい。担任やボランティアの皆さんによる読み聞かせなども充実していきたい。
- ・新学習指導要領を見据えて、先生から授業を受けるだけではなく、子供たちからの自主的なアウトプットができるような授業の変換を。
- ・安心安全な学校運営。本日、避難訓練実施。688人が整然と避難できた。
- ・生徒指導的にも問題が多い子がいる。関係機関と連携してその子が一番幸せになるような対応をしていきたい。

【中学校】

- ・なりたい自分とは、「こういう職業につきたい。」ではなくて、「世の中に自分はこのように役に立てる。」と考えられる子どもを育てたい。小学校とも連携してキャリア教育という流れの中で、子どもたちに関わっていきたい。
- ・子どもたちは、おとなしくて真面目。本音は、もう少し元気でもよいかな？と思うくらい。

（湯澤）

- ・校長先生の意気込みが伝わってきた。異動で来るとは、運命的な出会いがあるということ。思いっきりやってほしい。今までの校長のことは気にせずに、校長先生の個性が現れるような学校運営をどんどんやってほしい。先生の足跡を残してほしい。

（宮島）

- ・町の目指す子ども像の中で地域が出てくるが、Uターンして帰ってくるには高森町という範囲のみではなく、飯田下伊那全体の良さを知っていくことも大切。
- ・地元企業を知っているということも重要。自分でも知らなかった素晴らしい企業もたくさんある。

(藤田)

- ・ 専門学校も含め進学率 78%、Uターン率 37%、高卒者の地元就職は 2 割程度で（県平均）毎年、半分以上の若者の半分がいなくなっている。
- ・ 企業情報については、「生徒向け」と「保護者向け」就活セミナーの両方が必要。保護者向け就職ガイダンスを H31 年度に実施予定となっている。地域の特色ある製造業とすればコシブ精密（松川町）はエンコーダースリットガラスで全国シェアの 4 割を、多摩川は角度センサーで 9 割以上を、天龍は F R P 製踏切遮断機で 4 割程を、夏目光学は産業用レンズで 3 割程を占めるなど、特色企業は たくさん存在する。パッケージで考え、いろんな所から働き掛けをしていく必要がある。

(湯澤)

- ・ キャリア教育について、学校と企業が一緒になってカリキュラムを作ることが実は効果的。学校は大変だが生徒は大変喜ぶ。このような取り組みは先生が地域に出るきっかけともなる。先生が学び、カリキュラムをいっしょに考えることで、先生が地域に出ていくきっかけを与えてほしい。

(鈴木)

- ・ 文科省が示したパンフレットでは、学校の学習指導要領が変わっていくとある。新しい学習指導要領に関して、それぞれの学校ではどのように動き出しているか。保護者への説明を丁寧にしてほしい。

(小林)

- ・ 基本の教え方は今までと大きくは変わらないが、学力などのとらえ方が変わってきている。
- ・ 県でも動画を作って公開しているので、ぜひ参観日などで活用したい。

(高山)

- ・ 目指すところは「生きる力」。これは変わっていない。ICT や AI が出てきても、困難にぶつかったときに、自分で考え、みんなで共同して解決する力が絶対に必要。

(藤田)

- ・ 今までのように座学、先生からの講義方式も悪いとは言わない。伊那小学校では、**数十年通知票はないと聞くし、時間割生徒・先生で決めているし、動物を飼育するなどの授業もあると聞く。こうした取組みを先生方はどのように考えているか？**

(袖山)

- ・当小学校では、とにかく動物を飼う。自分たちで考えている力はあるのではないか。学力も中学校に行っても落ちていないものと思う。

(藤田)

- ・テストの点だけの評価はできない。家庭も含め、失敗を認める環境をつくっていくことが必要。「失敗=悪」という考え方が学校にも社会にもあるのではないか。失敗は悪いことではない。失敗して、解決することを自分で考えることで力がついてくる。

(宮島)

- ・大学生でさえも与えられるのを待っている生徒が多い。また、まともな日本語の文章が書けない大学生も多い。論理的に文章を書くことができない。この年代で鍛え直すのは難しい。小中学校の時から、日々の学び、読書を通じて、文章を論理的に正確に書く力、読む力をつけていくことが重要。
- ・失敗してもやりっぱなしなのか、そのあとに自分でやり直すのかで大きな差が出てくる。間違えたところをやり直して、身につけていくことが必要と思う。

(帯刀)

- ・失敗から人は育っていく。その場合でも外の目が多いようなところではなく、学校内でたくさん失敗させるという配慮が必要。

(藤田) 防災学習・防災マニュアルに関するPP資料を提供・説明

- ・防災学習の取り組みは、メニュー全てではないが取り組めることを教育委員会と相談しながら行ってほしい。また、防災マニュアルの策定については、学校では現在の防災対応を点検し、疑問点や不明点を洗い出しておいてほしい。策定は教育委員会が中心となって進める。